

2007（平成19）年度 東京大学 入試問題 第1問 解答例

- 一 芸術のジャンルは、個別的な営みや作品と全体的な自律的領域との矛盾を媒介するので、近代的な芸術理解に不可欠だから。
- 二 近代芸術は、固有の法則に規定された文化領域であり、全体として一体系をなす点に特有の価値の根拠があったということ。  
\* 「自律性」と「完結性」の並列項それぞれを置換説明するのが、難しいが必須である。
- 三 理論的営みが普遍的法則を求めるとき、ジャンル区分は、個別的具体的現象を集合として共存させるうえで必要であるから。
- 四 感覚的性質から感受する満足を第一の目的とする文化領域は、感受の前提となる視聴覚を基準として分類されるということ。  
\* 「 」を付された「感性」の置換説明が適切にできるかどうかは鍵である。傍線部中の、それも「 」付の語を置換説明もせずに、そのまま「 」付で解答に用いることなどありえない。
- 五 感覚と物質を基準とする芸術のジャンル区分は、個別的な作家や作品と本質的普遍的な自律的領域とを媒介する。したがって、その把握には、普遍的法則を求める理論的研究と、人間の感覚や物質の微妙な変動に関する実証的な歴史的研究の双方を要するという。 (一二〇字)
- 六 a 通念    b 統御    c 流布    d 融和    e 排除